

## 京都こども文化会館の閉館について

京都こども文化会館（以下「会館」という。）は、昭和57年の開館以来、府市協調による運営を行ってきました。

しかしながら、開館から40年近くが経過し、施設・設備の老朽化、耐震性能の不足、利用者の減少などの課題が生じており、平成30年9月には学識経験者や青少年育成団体、地元関係者等で構成する「京都こども文化会館あり方懇談会」（以下「懇談会」という。）から今後のあり方についての報告書が提出されたところです。

これを受け、府市で慎重に検討を進めてきましたが、この度、閉館することとしましたので御報告します。

## 1 会館の概要

## (1) 施設概要

所在地 上京区一条通七本松西入瀧ヶ鼻町431-1

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階（一部地下1階）建

主要施設 ①大ホール 916 m<sup>2</sup> (608人収容可能) ④資料室 68 m<sup>2</sup>

②小ホール 160 m<sup>2</sup> (100人収容可能) ⑤からくり人形時計塔

③創造活動室 152 m<sup>2</sup> (30人収容可能×2室)

延床面積 4,600.06 m<sup>2</sup>

※昭和54年の国際児童年を記念し、府市協調の下で設置

## (2) 事業内容

ア 貸館事業（ホール等）

イ 府市との共催事業（コンサート、映画鑑賞会等）

ウ 文化教室（絵画・書道・合唱）等の文化事業

## (3) 運営等

ア 京都市が土地を所有し、京都府が施設を建設、所有している。

イ 京都府が施設活用団体として一般財団法人京都こども文化会館を選定し、同法人が京都府・京都市の補助を受け運営している。

## (4) 利用状況

ピーク時（平成6年度）と比べて、全体の利用者数は約7割減少している。

（利用者数・利用率の推移）

区分	H6 (ピーク)	H27	H28	H29	H30	R1
大ホール	147,355人 (77%)	66,600人 (55%)	53,005人 (48%)	54,885人 (53%)	48,720人 (46%)	43,535人 (42%)
小ホール	29,140人 (93%)	15,180人 (76%)	14,885人 (80%)	13,605人 (69%)	12,445人 (66%)	11,095人 (58%)
創造活動室	21,832人 (79%)	13,385人 (71%)	12,970人 (74%)	12,350人 (76%)	12,510人 (72%)	10,225人 (65%)
利用者数計	198,327人	95,165人	80,860人	80,840人	73,675人	64,855人

## 2 懇談会からの報告書で示された意見の概要（報告書の概要は資料1参照）

- (1) 「現在地で、今後、多額の税金をかけて大規模改修や施設建替を行うことに多くの府民・市民の理解を得るのは難しいのではないかと」言わざるを得ない。

したがって、仮に施設を存続させる場合には、多額の費用を支出することに対して府民・市民を納得させる説明責任が生じる。少なくとも、本懇談会が検討した諸点\*について、将来の見通しや具体的な解決策が示されなければならないだろう。

※ 施設利用の低迷、施設・設備の老朽化、建替え等に係る大きな財政負担など

- (2) 仮に施設を存続しないとする場合は、現在の施設利用者に配慮しつつ、この間、充実されてきた既存の社会資源を最大限活用し、引き続き、子どもたちの文化・芸術の振興に努めることを望む。

## 3 閉館理由

- (1) 施設・設備における経年劣化が更に進み、専門事業者による再点検等の結果、次のとおり、安全面におけるリスクの高まりが確認されたこと。

ア 高圧電気設備：地盤沈下による高圧ケーブルの断線により、漏電による電気事故（出火等）が発生するリスクが極めて高く非常に危険であること（高圧ケーブルの更新には建物の改修工事が必須）。

※ 平成31年4月には3階分電盤が発火・溶解し、一部で停電

イ 空調設備：腐食が進行し、機能喪失（長期停止）がいつ発生してもおかしくない状況であること。

ウ 会館屋根：スレートが劣化し、剥離落下するなど、事故の危険性があること。

- (2) 建物が耐震性を欠いており、地震により倒壊又は崩壊の危険性があること。  
(3) 上記(1)、(2)を踏まえ、今後とも施設を維持していくには、建替えの場合は約21億円、大規模修繕（耐震改修を含む）の場合は約10億円と多額の経費が必要となること。 ※ 費用は平成30年度当時の概算  
(4) 工事を行う場合、建替えの場合は約3年、大規模修繕の場合は約1年半の長期休館により、更なる利用者離れが進み、再開したとしても、利用者数の回復は難しいこと。  
(5) 京都テルサ、府立京都学・歴彩館、京都市文化会館（市内5箇所）、ロームシアター京都等の施設整備が近時進んできたこと。

※ (1)のイ、ウ及び(2)に関して、詳細は資料2参照

## 4 閉館に向けた今後の予定

5月14日から新規の予約受付（利用予定日の6箇月前から受付）を終了しており、令和2年11月末までに閉館します。

また、文化教室は上半期（9月末）までの実施とします。

## 5 今後の利用者への対応

これまでの利用者に対しては、閉館の決定をお知らせするとともに、必要に応じて、他施設の斡旋に努めるなど丁寧な対応を行ってまいります。

なお、既に予約の申込みをいただいているものについては、老朽化等で施設設備に課題があることを御説明し、安全確認のうえ、希望される方には利用していただくこととします。

## 京都子ども文化会館あり方懇談会の報告書の概要

## 1 懇談会設置に係る経過

- ・ 会館は、昭和57年開館以来、青少年が芸術・文化を鑑賞し、創造・発表する場として、また、絵画・書道・合唱の「子ども文化教室」などにより、青少年の健全育成に大きな役割を果たしてきた。
- ・ しかし、近年は利用者が低迷（平成27年度はピーク時から半減）している。
- ・ 他方、施設開設後35年が経過し施設の老朽化が進展、建物の耐震性も欠いていることから、利用者の安全を確保しながら、施設の利用を継続するためには、大規模改修等に必要な再投資をすることが不可欠な状況となっている。
- ・ 以上を踏まえ、今後の施設のあり方について専門的見地等から幅広く意見を求めるための懇談会が府市共同で設置された。

## 2 検討の経過

- ・ 懇談会については、設置以降、全3回開催し、検討を行った。
- ・ 施設の現地調査、客観的なデータによる利用実態や類似施設の状況等についての現状と課題の確認、懇談会による施設利用団体へのアンケート調査を実施した。
- ・ 現在は利用していない団体への追加調査を行った。
- ・ 府市や会館を運営する施設活用団体への質疑や委員間の意見交換を行った。

## 3 まとめ

- ・ 「現在地で、今後、多額の税金をかけて大規模改修や施設建替を行うことに多くの府民・市民の理解を得るのは難しいのではないか。」と言わざるを得ない。

したがって、仮に施設を存続させる場合には、多額の費用を支出することに対して府民・市民を納得させる説明責任が生じる。少なくとも、本懇談会が検討した諸点<sup>※</sup>について、将来の見通しや具体的な解決策が示されなければならないだろう。

※ 施設利用の低迷、施設・設備の老朽化、建替え等に係る大きな財政負担など

- ・ 仮に施設を存続しないとする場合は、現在の施設利用者に配慮しつつ、この間、充実されてきた既存の社会資源を最大限活用し、引き続き、子どもたちの文化・芸術の振興に努めることを望む。

## 施設・設備の経年劣化等の状況

## 1 高圧電気設備（令和2年3月調査）

次のとおり経年劣化が進んでおり、経年劣化の進んだ電気設備は、長期間の停電や漏電による電気事故（出火等）が発生するリスクが極めて高く非常に危険である。

- (1) 電気設備の耐用年数15年～25年であるところ、ほぼ全ての設備の使用年数が40年近く経過していることから、数週間程度の停電を引き起こす可能性が非常に高く、設備全体の抜本的な改修が必要。
- (2) 耐用年数の超過のほか、PAS（高圧気中開閉器）の接地抵抗過大や各VCB（真空遮断器）の絶縁低下等、既に不具合が発生している機器も多い。  
 （近年の不具合）平成31年4月 3階の分電盤が発火・溶解し、第1創造活動室等で停電  
 令和元年6月 高圧受電設備のVCBの絶縁抵抗不良が発覚
- (3) 地中を経由している高圧ケーブルが地盤沈下の影響を受けており、更新には建物の改修が必要であり、また、万ケーブルが損傷すると長期間の施設内全停電が免れない。

## 2 空調設備（令和2年3月調査）

次のような経年劣化の進行により不具合が発生する可能性が高まっており、長期停止がいつ発生してもおかしくない状況であることから、今後会館運営に多大な支障をきたす恐れがある。

- (1) 空調設備の耐用年数15年であるところ、使用年数が約23～38年経過していることから、経年劣化による腐食で機器内部に穴が開くなどの重大なトラブルがいつ発生するか分からない。
- (2) 近年、経年劣化による不具合が頻発しており、部品交換や定期的なメンテナンスでかろうじて運転できている状況にある。  
 （近年の不具合）平成29年5月 小ホール系統の空調機が異常停止  
 平成30年4月 大ホール系統の冷温水器の冷媒漏れが発生
- (3) 機器本体で不具合が発生した場合、部品の納期を含めて5～6箇月の間、会館機器を使用停止する必要があるため、会館運営に支障をきたす。

## 3 建物の耐震性能（平成28年度調査）

震度6～7程度の規模の地震に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

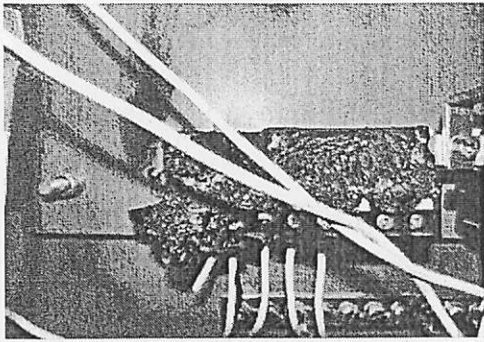
- ・ Is 値 最小0.301 最大2.63
- ・ フロア別診断
 

ピロティ、ロビー、小ホール	： 最小 Is 値 0.301
大ホール(客席及び舞台)	： 最小 Is 値 0.55
楽屋・機械室	： 最小 Is 値 0.47

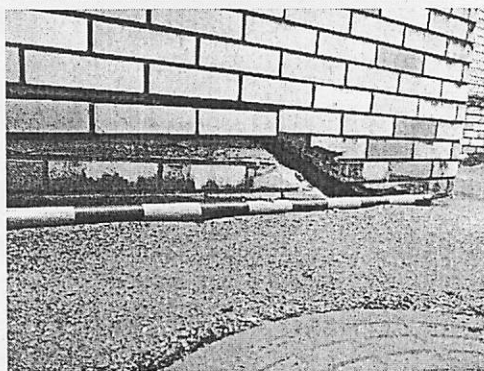
（参考）耐震改修促進法に基づき定められた構造耐震指標（Is 値）

Is 値 0.6 以上	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が <u>低い</u>
Is 値 0.3 以上 0.6 未満	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が <u>ある</u>
Is 値 0.3 未満	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が <u>高い</u>

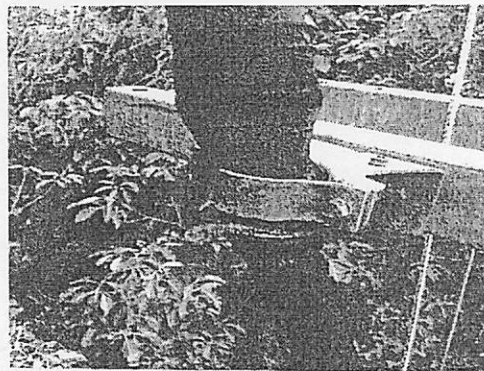
(参考) 京都こども文化会館の施設・整備の老朽化の状況



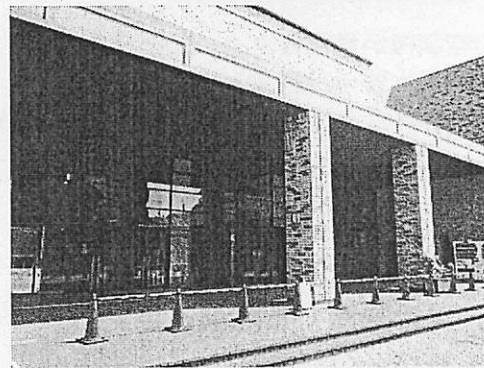
○分電盤が発火・溶解し、一部で停電発生  
(平成31年4月発生)



○ 地盤沈下により、建物構造物に亀裂が発生  
当該箇所の地中に埋設されている高圧ケーブルに負荷がかかっており、断線のおそれがある。  
※ 高圧ケーブルの更新には建物の改修が必要



○ 高圧ケーブルの地中への引き込み箇所において、下向きの圧力がかかり支持具がずれ始めており、ケーブルに負荷がかかり続けていることが分かる。



○ 会館正面屋根のスレートの一部が剥離し落下(令和2年1月発生。今後も同様の事象が発生するおそれがあるため、バリケードを設置し、屋根下部付近の立入を制限している。)



○ ロビー及びピロティは、構造耐震指標(Is値)が低く、震度6~7程度の規模の地震に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。